

2021年12月期



決算補足説明資料

株式会社テクノフレックス
証券コード:3449

1. 2021年12月期 決算概要
2. 2022年12月期 業績予想
3. TOPICS



1. 2021年12月期 決算概要

2021年12月期 連結業績 1 決算概要・前年同期比



◆ 連結業績(前年同期比・計画比)

単位:百万円

	2020年12月期 累計業績	2021年12月期 累計業績	前年同期比		通期計画 (達成率)	
			増減額	増減率	計画値	達成率
連結売上高	18,734	19,633	+898	+4.8%	19,200	102.3%
連結営業利益	1,965	2,615	+649	+33.1%	2,450	106.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,205	1,718	+513	+42.6%	1,500	114.6%

◆ 上・下期比較

単位:百万円

	2021年12月期 上期	2021年12月期 下期	下期増加額/率	
連結売上高	8,857	10,775	1,918	+21.7%
連結営業利益	1,169	1,445	275	+23.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	734	984	250	+34.1%

● 連結売上高

- ✓ 半導体関連の好況等を要因に、国内外で真空機器が通期で良好に推移しました。
- ✓ インフラ関連の継手製品と消防設備工事は、上期が低調であったものの、下期から回復に転じました。
- ✓ その結果、4Qで前期比プラスに転じ、通期で前期比+898百万円(+4.8%)となりました。

● 連結営業利益

- ✓ 売上高の回復に従い3Qで前年同期比プラスに転じ、通期で前期比+649百万円(+33.1%)となりました。

● 親会社株主に帰属する当期純利益

- ✓ 連結営業利益と同様に3Qで前年同期比プラスに転じ、通期で前期比+513百万円(+42.6%)となりました。

2021年12月期 連結業績 2 四半期業績の推移



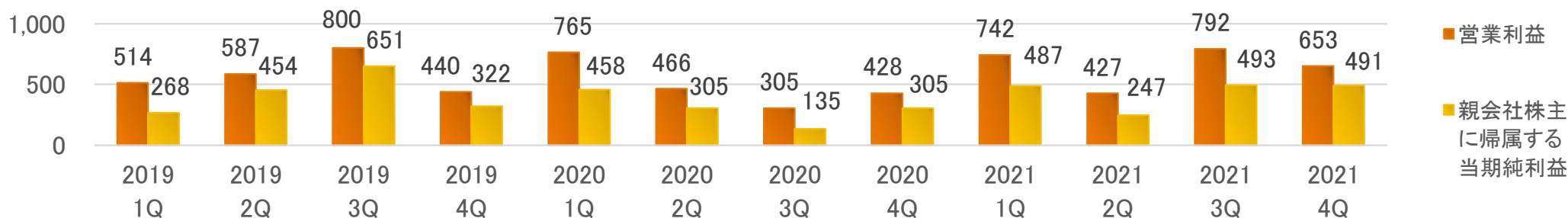
単位:百万円

四半期 連結売上高の推移



単位:百万円

四半期 連結利益の推移

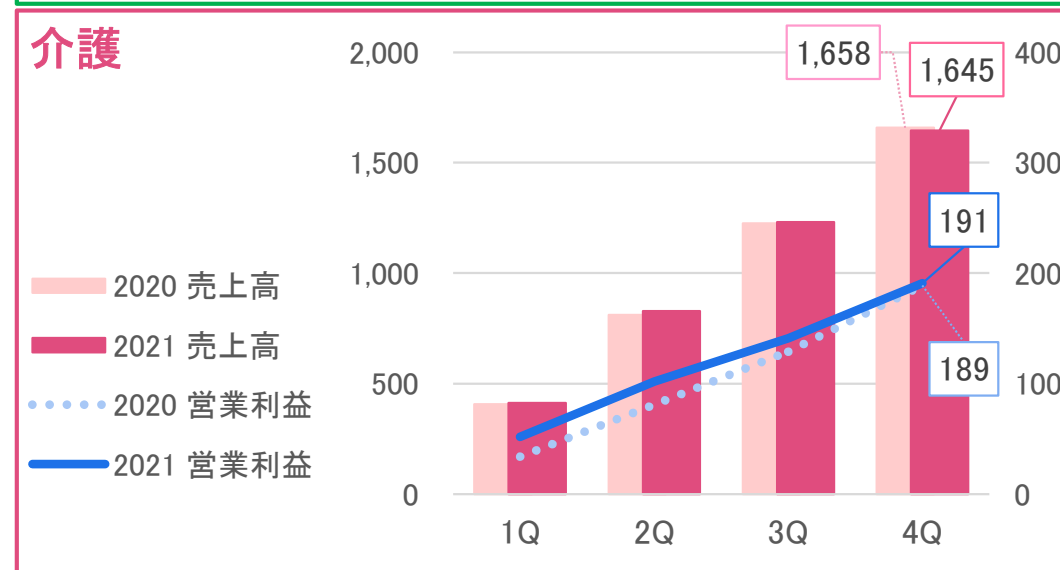
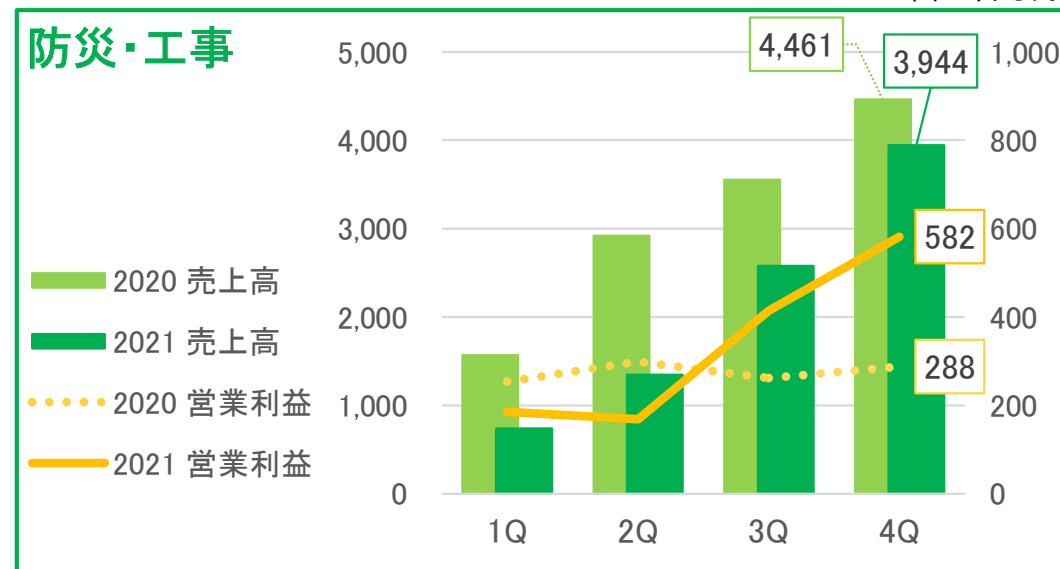
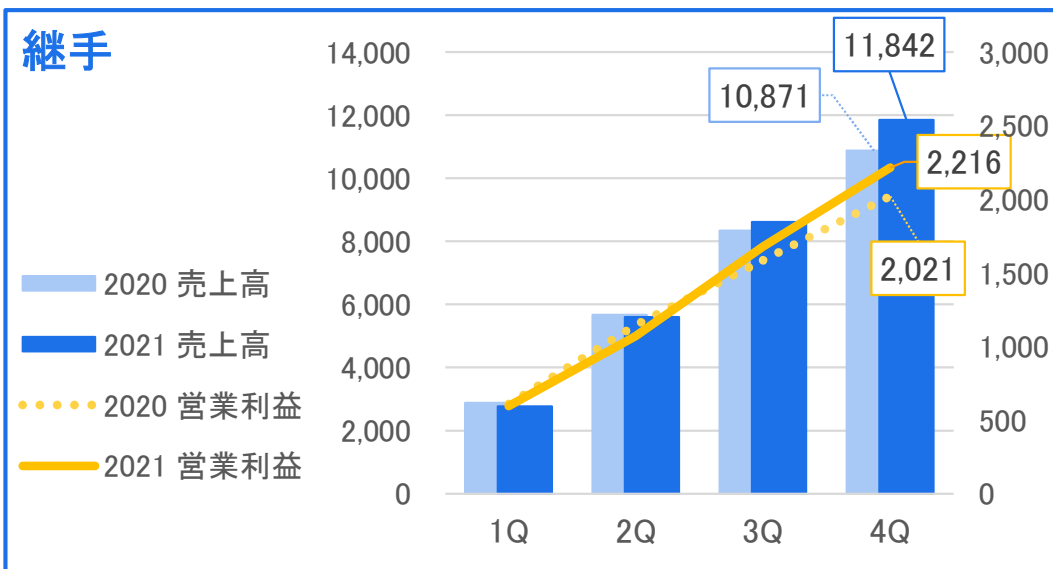


- 前期途中から売上が低調でしたが、継手事業の新製品が売上を伸ばしたことで市況の回復により、当期3Qから好調に推移しています。
- 前期は下期の業績が低迷していたのに対し、当期は下期が好調であったため、収益は下期にプラスに転じ、通期計画を達成しました。
- 当期1Q・3Qの営業利益が多いのは、半導体関連の売上が多かったことと、消防設備工事で特殊案件があり利益が大きかったことが、要因です。

2021年12月期 セグメント業績 1 前年同期比



単位: 百万円



➤ 前年同期比で、売上高は、継手事業と自動車・ロボット事業がプラス、防災・工事業業と介護事業がマイナスでしたが、営業利益は全セグメントでプラスでした。

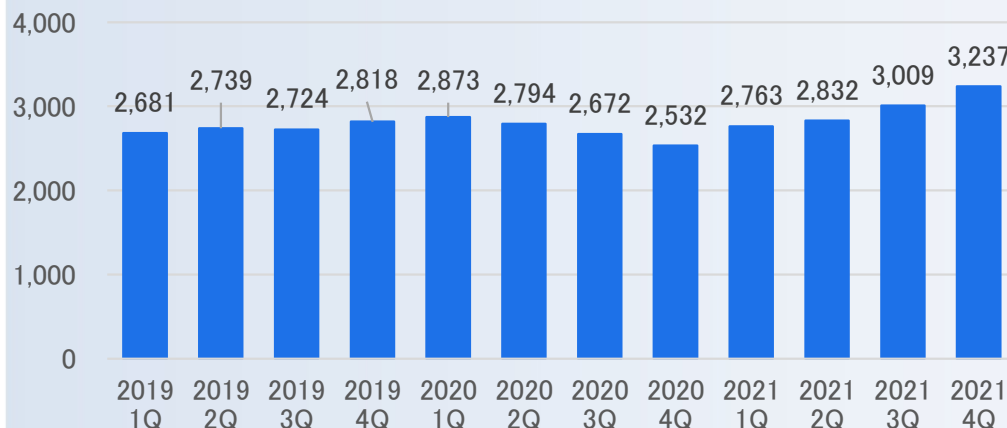
2021年12月期 セグメント業績 2 継手事業



◆ 継手事業

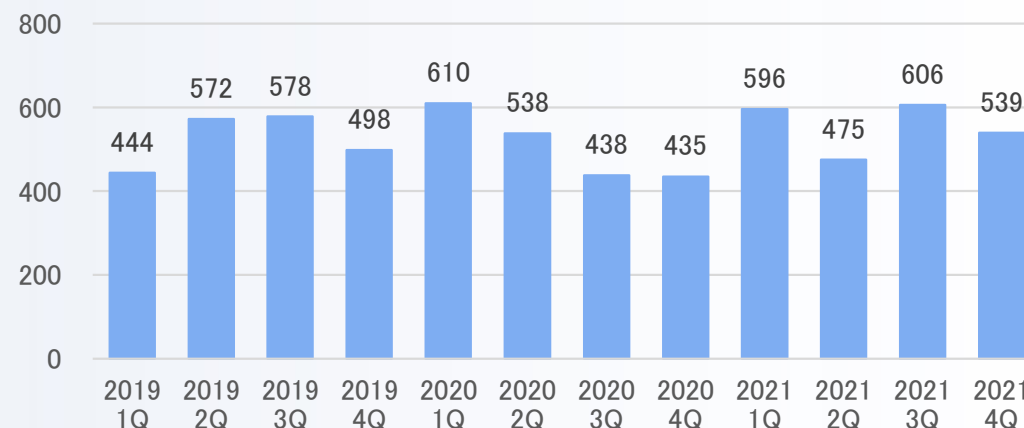
売上高の推移

単位:百万円



営業利益の推移

単位:百万円



➤ フレキシブル継手

- ✓ 1Qは低調でしたが、インフラ関係と建設関係の市況回復に伴い好転し、通期で増収増益となりました。
- ✓ 但し、水道本管の交換工事は回復が遅れており、SDF工法の件数は低調なまま推移いたしました。
- ✓ スプリンクラー用の「SP-X」が右肩上がりで進捗し、通期に渡り売上に貢献しました。

➤ 伸縮管継手

- ✓ 受注増加により前期比プラスとなり、概ね計画通りの実績となりました。

➤ 真空機器

- ✓ 半導体関連の設備工事に伴い、通期に渡り概ね好調に推移しました。
- ✓ チラーホース等の装置向け長尺製品が大きく伸長し、売上に貢献しました。
- ✓ 海外向けの真空機器が、好調を維持しました。

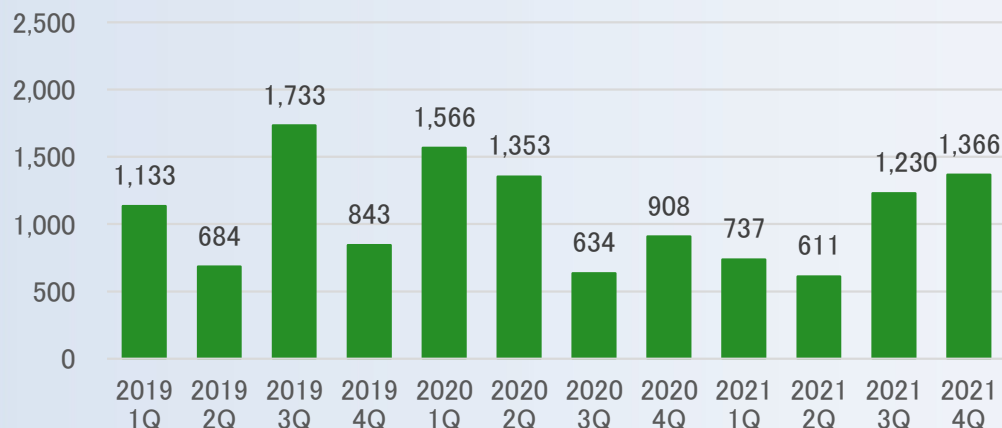
- 以上のことから、継手事業の前年同期比は、売上高+970百万円(+8.9%)、営業利益+194百万円(+9.6%)となりました。

2021年12月期 セグメント業績 3 防災・工事事業

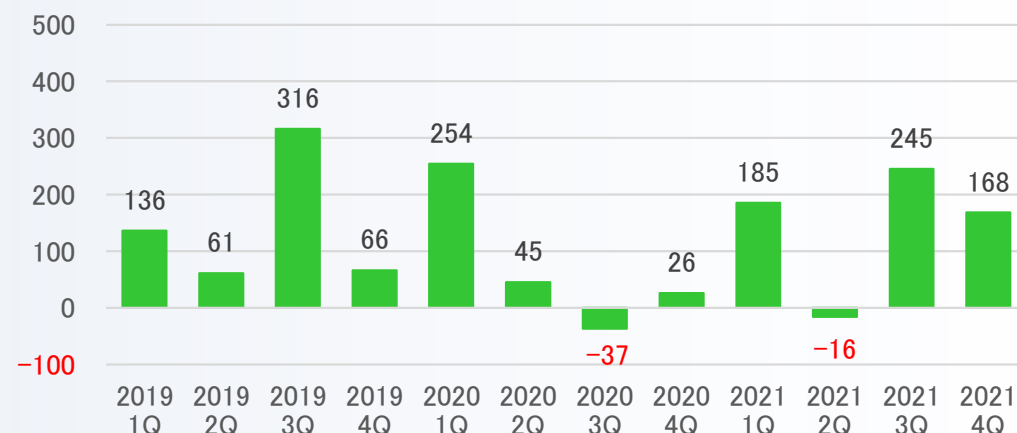


◆ 防災・工事事業

売上高の推移 単位:百万円



営業利益の推移 単位:百万円



➤ 消防設備工事

- ✓ 上期は市況の影響で低調に推移し、下期は首都圏再開発工事が消防設備工事の施行時期を迎えたため、業績が回復しました。
- ✓ 売上高は、上期低調であった影響が残り、前期比マイナスとなりました。
- ✓ 営業利益は、首都圏再開発工事での増益と、1Qと3Qに計上した特殊案件による増益が要因で、前期の2倍超となりました。

➤ 防災用貯水タンク

- ✓ 某住宅メーカーの災害対策商品にマルチアクア(防災用貯水タンク)が標準装備される等、住宅メーカーとの提携が進みましたが、業績への反映は、来期(2022年12月期)以降の予定です。

- 以上のことから、防災・工事事業の前年同期比は、売上高▲517百万円(▲11.6%)、営業利益は+293百万円(+101.8%)となりました。

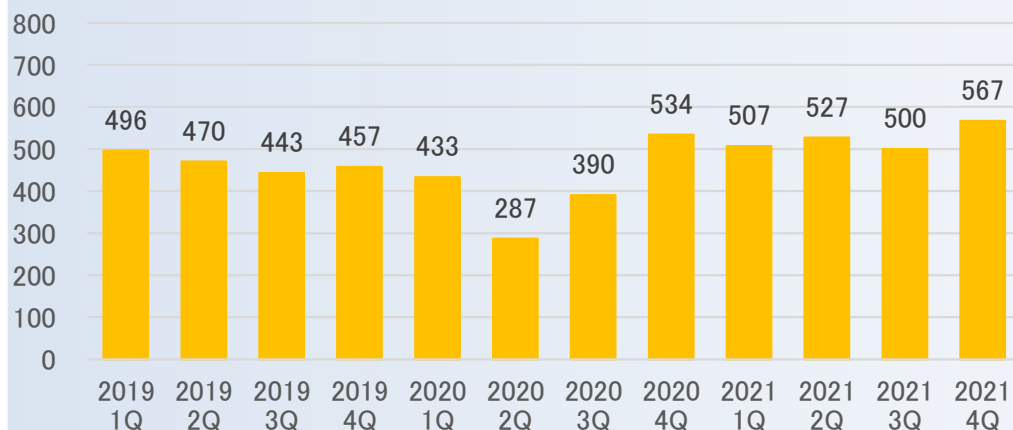
※ 当社は、2018年から工事進行基準に移行しておりますが、2017年以前に開始された案件は、途中で変更できないことから、工事完成基準で売上計上しております。尚、現在残っている工事完成基準の大型案件は、2023年完成予定の1件のみとなりました。

2021年12月期 セグメント業績 4 自動車・ロボット事業

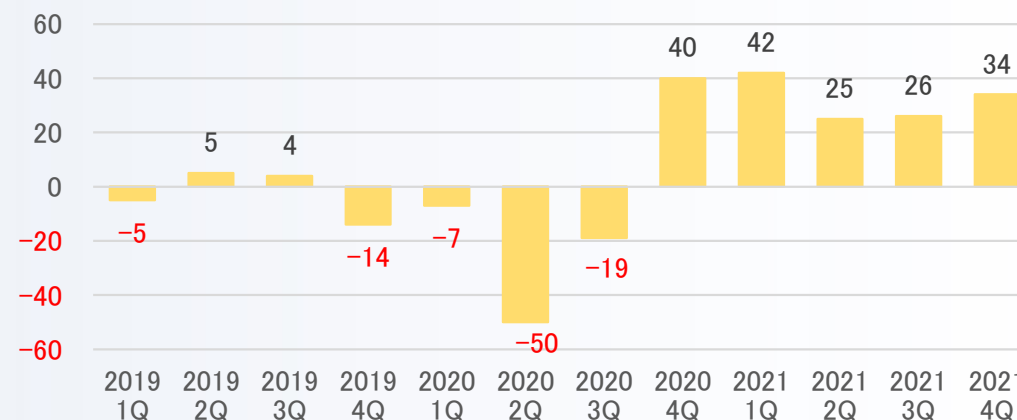


◆ 自動車・ロボット事業

売上高の推移 単位:百万円



営業利益の推移 単位:百万円

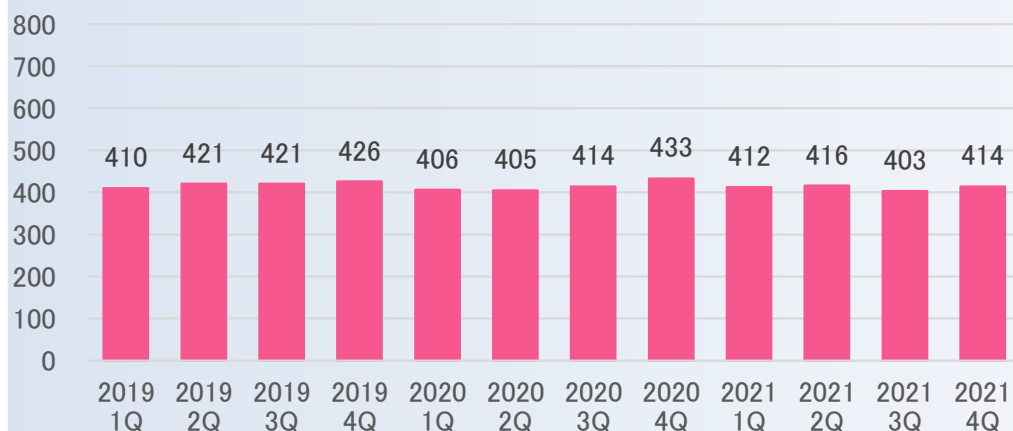


- 前期4Qに業績が回復して以降は、順調に推移しております。
- 自動車分野
 - ✓ 半導体不足等を原因に自動車の減産が発生しましたが、影響は限定的であり、一年を通じて概ね好調に推移いたしました。
- ロボット分野
 - ✓ ロボット需要の高まりに応じて、伸長いたしました。
 - ✓ ロボット分野でも、半導体不足等による影響が発生いたしましたが、自動車と同様に限定的でありました。
 - ✓ 需要拡大に伴い、4Qに製造設備を増強いたしました。
- 以上のことから、自動車・ロボット事業の前年同期比は、売上高+456百万円(+27.8%)、営業利益+163百万円(前期は36百万円のセグメント損失)となりました。

◆ 介護事業

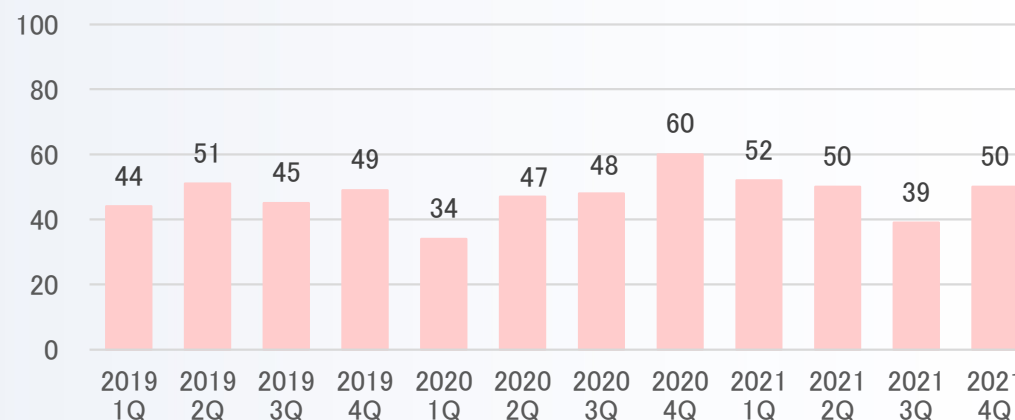
売上高の推移

単位:百万円



営業利益の推移

単位:百万円

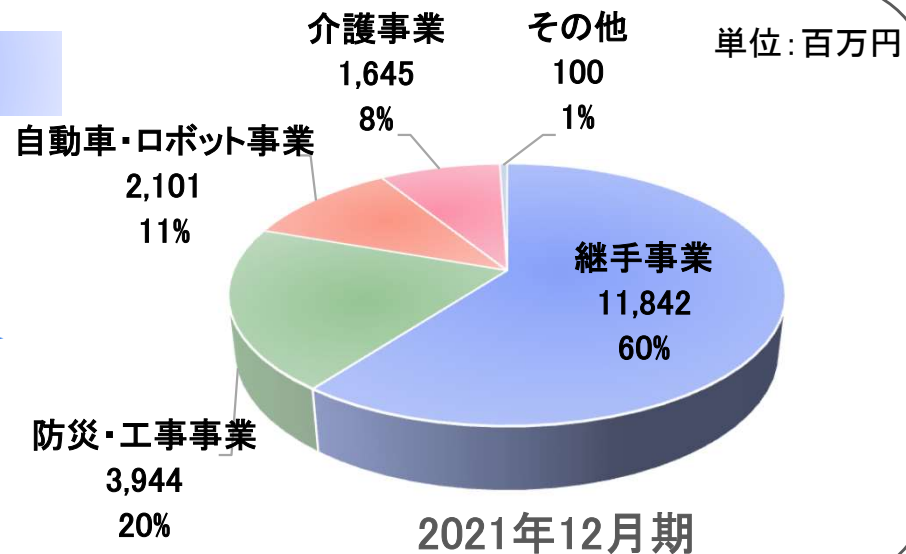
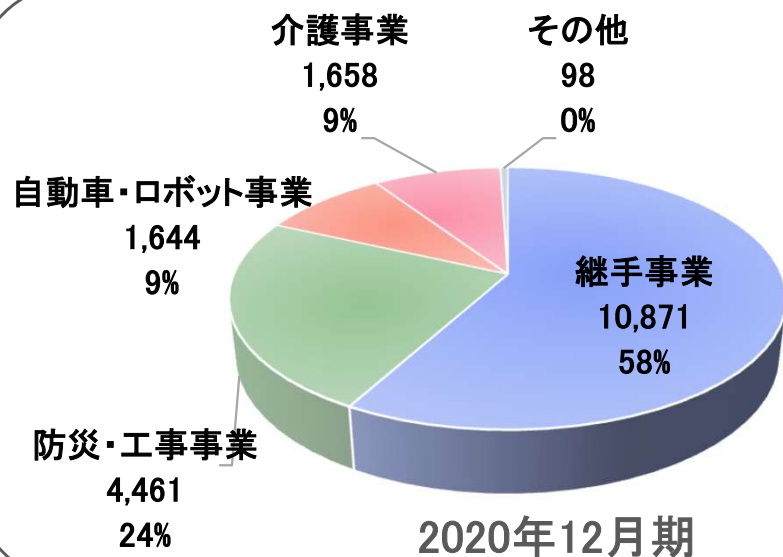


- 介護事業は、介護用品のレンタルを主軸としているため、コロナ禍でも継続契約に支えられて、概ね前期と同様の収益となりました。
- 介護用品のレンタル、介護用品の販売および介護用住宅改修の何れも、安定的に推移しました。
- 営業利益が、3Qに減少しているのは、広告宣伝費や協賛金の支払いの他、川口営業所(2021年11月新規開設・埼玉県川口市)の開設費用等が重なったことが、主な要因です。
- 以上のことから、介護事業の前年同期比は、売上高▲13百万円(▲0.8%)、営業利益+2百万円(+1.2%)となりました。

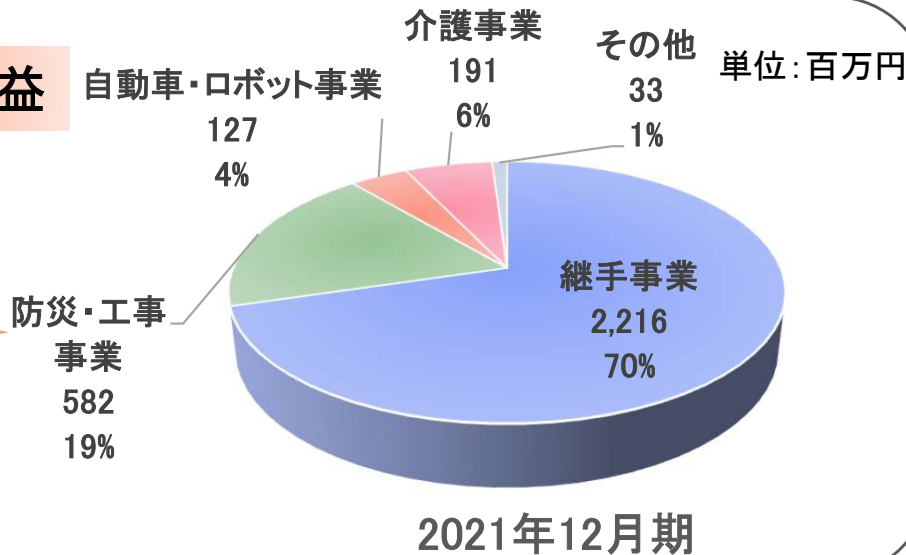
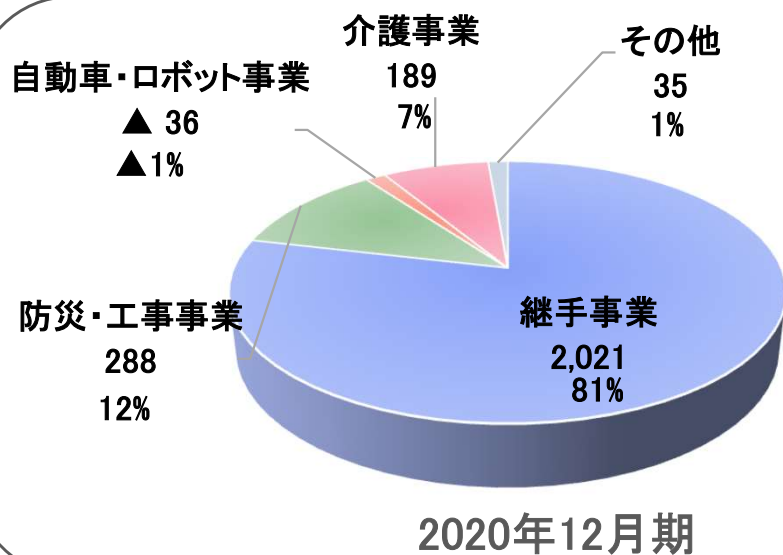
2021年12月期 セグメント構成比



売上高



セグメント利益



2. 2022年12月期 業績予想

2022年12月期連結業績予想 SUMMARY



◆ 連結業績予想

単位:百万円

	2Q累計		通期	
	2021年 業績	2022年 予想	2021年 業績	2022年 予想
連結売上高	8,857	10,550 (+19.1%)	19,633	20,650 (+5.2%)
連結営業利益	1,169	1,350 (+15.4%)	2,615	2,500 (▲4.4%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	734	950 (+29.4%)	1,718	1,850 (+7.6%)

※ 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)を適用するため、上記の2022年予想は当該会計基準を適用した後の金額、2021年実績は当該会計基準を適用する前の金額です。()の増減率は、参考情報として記載しております。

- 市場環境は、2021年12月期の下期と同様に、概ね良好な状態で推移するものと思われます。
- 2021年12月期の上期業績が低調であったため、2Q累計予想の伸長率(参考情報)が高くなっております。
- 2021年12月期は、消防設備工事で特殊案件による増益がありました。
- 2022年12月期の業績予想は、千葉工場拡張工事^{※1}によるコスト増加等を見込んでいるため、営業利益が前期比マイナスの予想となりました。
- 親会社株主に帰属する当期純利益には、株式会社アクアリザーブとの合併^{※2}効果を想定しております。(2022年3月に予定している定時株主総会において、合併^{※2}が承認された場合を想定した業績予想です。)

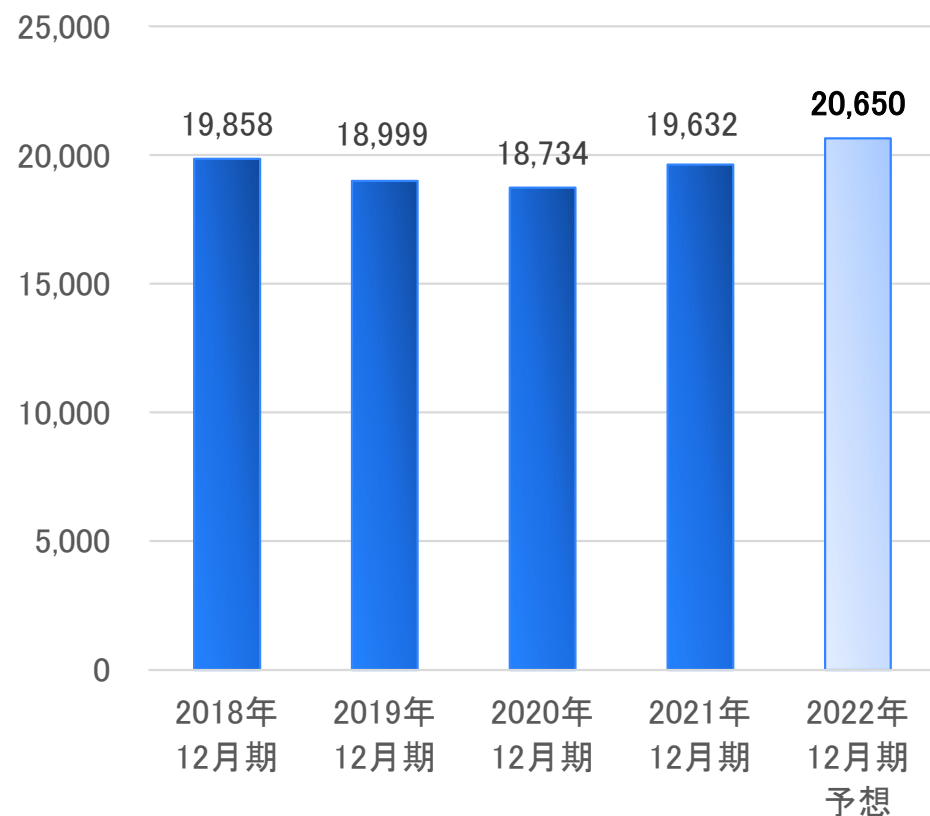
※1 千葉工場の拡張について <https://ssl4.eir-parts.net/doc/3449/tdnet/2047739/00.pdf>

※2 (株)アクアリザーブの吸収合併について <https://ssl4.eir-parts.net/doc/3449/tdnet/2070066/00.pdf>

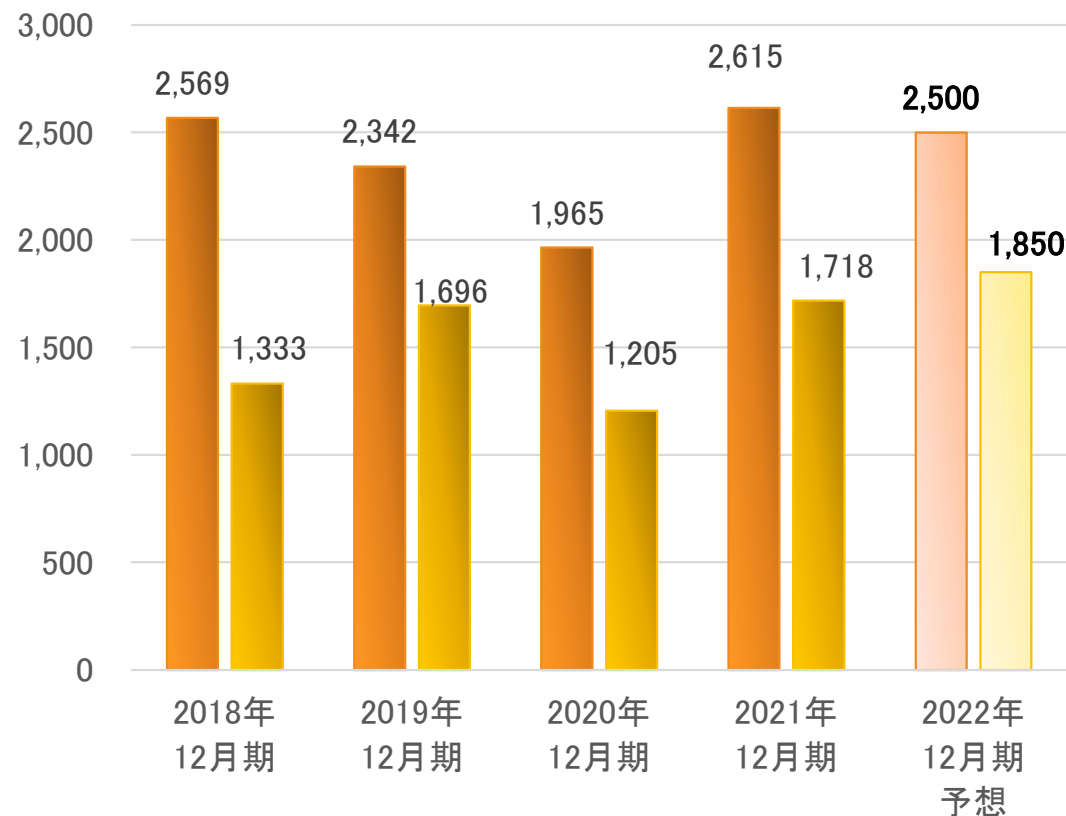
2022年12月期連結業績予想(直近4年間の実績と比較)



単位:百万円



単位:百万円



※ 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)を適用するため、上記の2022年予想は当該会計基準を適用した後の金額、2021年実績は当該会計基準を適用する前の金額です。()の増減率は、参考情報として記載しております。

◆ 継手事業

- フレキシブル継手
 - ✓ フレキシブル継手全体では、2021年下期から引き続き、概ね良好な状態を維持する見込みです。
 - ✓ 水道分野のSDF工法の回復には、時間が掛かる見込みです。
- 伸縮管継手
 - ✓ 足元では、原子力発電等を中心に引き合いが増えており、電力関係等での伸長を見込んでおります。
- 真空機器
 - ✓ 2022年12月期も、半導体関連の設備工事が好調に推移し、継手事業を牽引する見込みです。
 - ✓ チラーホース等の装置向け長尺製品と、海外向けの真空機器が、引き続き良好に推移する見込みです。

◆ 防災・工事事業

- 消防設備工事
 - ✓ 首都圏の再開発工事が、今後数年間に渡って高い水準で推移する見込みです。
 - ✓ 2021年12月期のような特殊案件による増益効果は、現時点で想定しておりません。
- 防災用貯水タンク(マルチアクア)
 - ✓ 当社と㈱アクアリザーブの合併により、販売を強化する予定です。

◆ 自動車・ロボット事業

- 自動車分野・ロボット分野ともに、半導体等の供給不足が懸念されますが、現時点で、業績への影響は、限定的であると見込んでおります。
- ロボット分野は、4Q終盤から増産を開始しており、2022年12月期業績に寄与する見込みです。

◆ 介護事業

- 介護用品のレンタルに加え、商品販売に注力いたします。
- 川口営業所(2021年11月新規開所)とSUN福祉工房(2022年2月M&Aにより開所)※の開所効果は、次第に表れてくるものと予想しております。

※ ㈱スペースケアのホームページに、掲載しております。 <https://www.spacecare.co.jp/category/%e4%bc%81%e6%a5%ad%e6%83%85%e5%a0%b1/>
川口営業所(2021年11月1日掲載)・SUN福祉工房(2022年2月1日掲載)

3. TOPICS



千葉工場の拡張について(検討中)



概要

現在、千葉工場内で老朽化の進む一部の平屋建ての工場棟および隣接する建物を、延床面積約17,000㎡(約5,000坪)、従業員約100名規模の新工場に建て替え、工場規模を拡張する計画を、検討しております。グループ各社の人財と技術の交流によって、グループ間のシナジーが生まれる場所にしたいと考えております。

現在検討中の主な用途

- 製造工場 : 主力製品のフレキシブル継手や、成長事業である真空機器の製造を、強化します。
- 流通センター : 近接する都心部への納期短縮に、効果を発揮いたします。流通面の効率化と、顧客満足度の向上につき、検討して参ります。
- 配管加工工場 : 工事現場で職人が行う配管の切断や穴あけ等の加工を、職人の代わりに自動でロボットが行うプレハブ加工の工場で、TFエンジニアリングの事業です。職人不足の進行による、需要拡大が見込まれます。
- 介護用マットレス洗淨施設 : 専用の施設でなければ難しい介護用マットレスの洗淨を工場で行う、スペースケアの事業です。介護需要の高まりに応じて、設備を増強いたします。
- 製品試験センター : 消火設備の評価に必要な耐火試験等を行う、試験センターを設置予定です。
- その他の事業 : その他のグループ会社の事業においても活用を検討し、当社グループ全体の中心的な事業拠点とする計画です。



▲ 新工場のイメージ



▲ 敷地のほぼ中央の工場棟を建替える予定です。

◆ 持続可能な社会への取り組み

新工場では、カーボンニュートラル(脱炭素)の実現を目指し、金属製品の製造で頻繁に行われる溶接の工程を削減するために、非溶接構造の製品開発を進めて参ります。

本件に係わる適時開示情報

2021年11月12日付
「千葉工場の拡張に関する検討開始のお知らせ」
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3449/tdnet/2047739/00.pdf>

アクアリザーブ社との合併について 1 合併の概要



◆ 合併の方式 : 吸収合併 … [存続会社] 株式会社テクノフレックス ・ [消滅会社] 株式会社アクアリザーブ

◆ 消滅会社の概要

名称(所在地)	: 株式会社アクアリザーブ(東京都台東区)		
事業内容	: 水道配管における貯水技術を応用した製品開発、製造販売。 製品名「マルチアクア」(防災用貯水タンク)		
資本金	: 50百万円	設立年月日	: 2014年3月10日
発行済み株式数	: 1,000株	決算期	: 12月31日
株主(持株比率)	: 株式会社テクノフレックス(100%)		
直前事業年度(2020年12月期)の財政状態および経営成績			
純資産	: △1,535百万円	総資産	: 171百万円
売上高	: 77百万円	営業利益(△は損失)	: △184百万円
経常利益(△は損失)	: △199百万円	当期純利益	: △199百万円

◆ 合併に係る割当 : 完全子会社との吸収合併であるため、新株式の発行および金銭等の割当はございません。

◆ 消滅会社の新株予約権・新株予約権付社債に関する取扱い : 消滅会社は、新株予約権および新株予約権付社債を発行しておりません。

◆ 今後の予定 : 2022年3月25日 合併契約承認株主総会(※ 本合併は、株主総会での承認を前提としております。)
2022年4月1日 合併効力発生日

本件に係わる適時開示情報

2022年1月14日付「当社完全子会社である株式会社アクアリザーブとの吸収合併に関するお知らせ」
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3449/tdnet/2070066/00.pdf>

アクアリザーブ社との合併について 2 設立～現在



◆ 立上げ期 (2014年～2015年頃)

- 頻発する自然災害や政府主導による国土強靱化を背景に、国内の防災意識の高まりに応えるため、2014年に株式会社アクアリザーブを設立。
- マーケティング・製品開発の期間でありましたので、販売実績はございません。

◆ 販路開拓期 (2016年～2018年頃)

- 防災用貯水タンク「マルチアクア」を上市。
- 企業のBCPや避難所などをターゲットとして販売開始。

◆ 住宅ルート開拓期 (2019年～2021年頃)

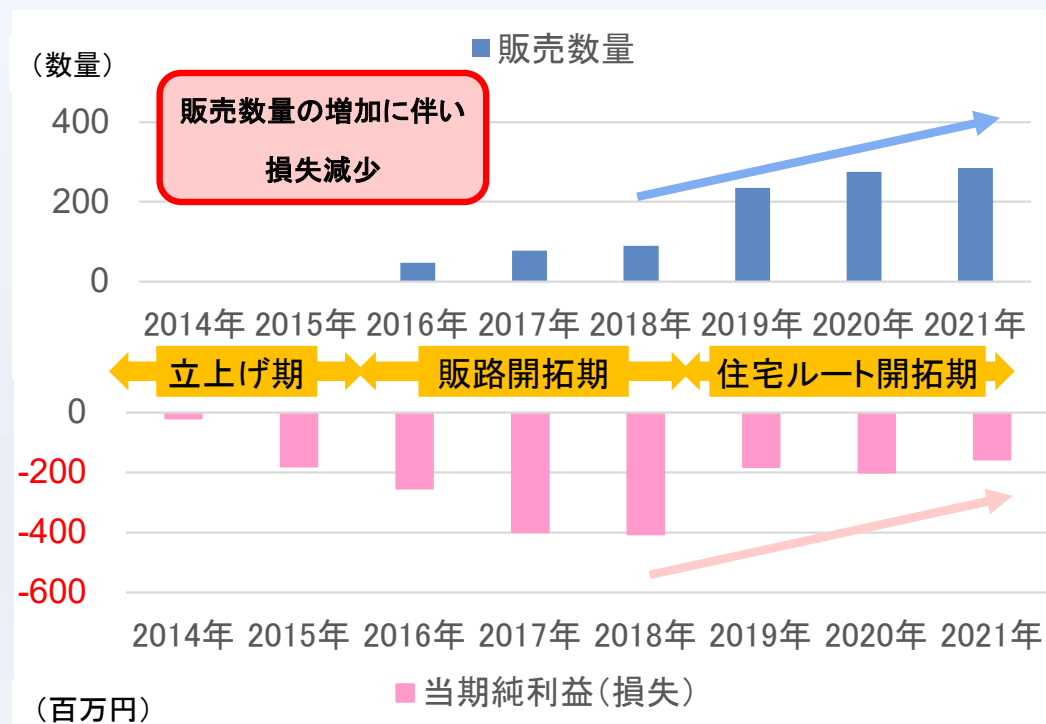
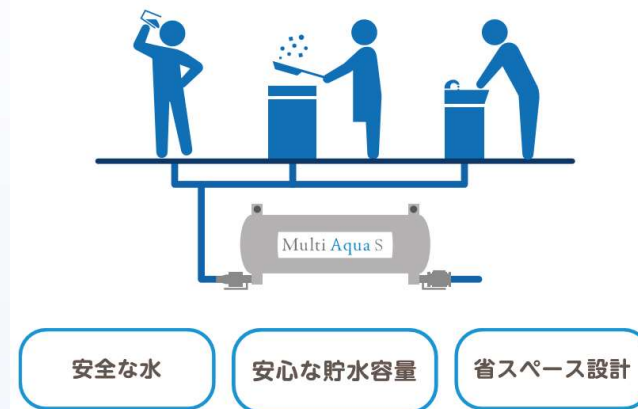
- 年間約100万戸※の戸建住宅市場をメインターゲットとして販路を開拓。
- 販売数量の増加に伴い、当期純損失は大幅に減少。



メインターゲット

戸建住宅の市場は
年間約100万戸※
(新築・リフォーム合算)

※ 当社推計



アクアリザーブ社との合併について 3 合併後の事業展開



◆ 現状の課題

- 製品開発 ⇒ ○ 市場ニーズを捉えた「マルチアクア TypeS」を発売。
 拡販に向けて製品ラインナップが整う。
- 販売体制 ⇒ ✖ 営業力(人員)不足。
 営業人員を増強しスピードアップが必要。

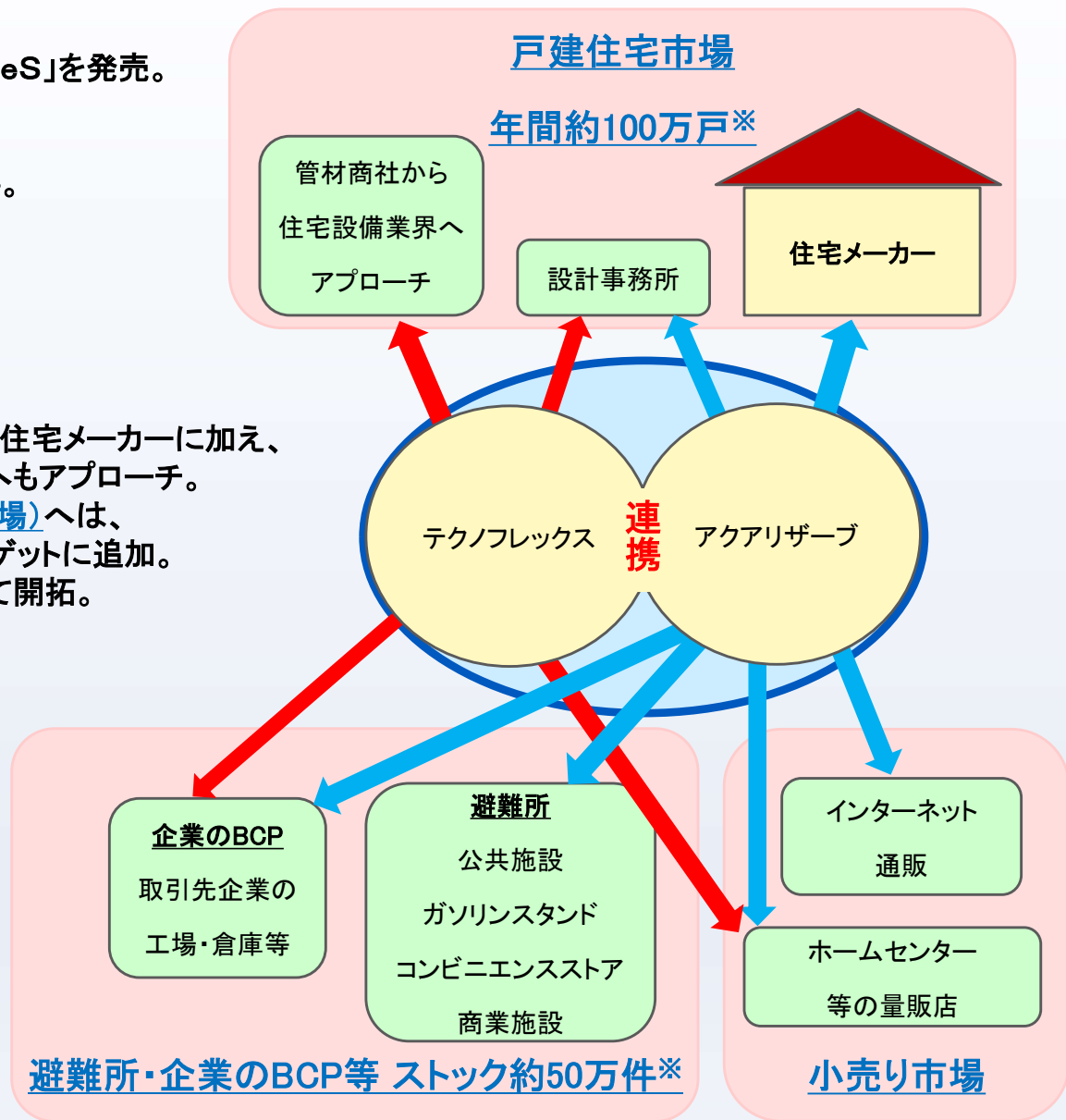
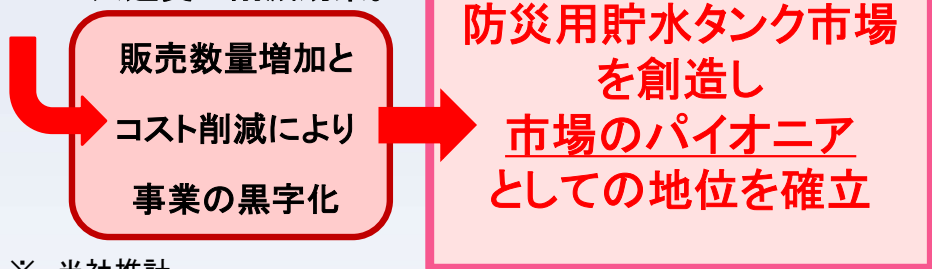
◆ 営業力強化



- 現在のテクノフレックスの営業をマルチアクアの販売に導入。
 - 営業人員を増強。
 - 販路拡大(多様化)
 - ✓ 戸建住宅市場(年間約100万戸※の市場)へは、従来の住宅メーカーに加え、設計事務所やテクノフレックスの顧客である管材商社へもアプローチ。
 - ✓ 避難所・企業のBCP等の市場(ストック約50万件※の市場)へは、テクノフレックスの顧客が保有する工場・倉庫等もターゲットに追加。
 - ✓ 小売り市場は、上記戸建住宅市場への別ルートとして開拓。
 既存のインターネット販売の拡充と共に、ホームセンター等の量販店での販売ルートを開拓。
- 上場企業が直接販売 ⇒ 信用度アップ。

◆ その他の合併効果

- テクノフレックスとアクアリザーブの技術連携。
- 共通費の削減効果。



※ 当社推計

2021年12月期 決算説明動画のご案内



- ◆ 2021年12月期 決算説明会(アナリスト・機関投資家向け)は、新型コロナウイルスの感染が拡大していることから、ご来場の皆様の健康と安全確保を第一と考え、開催を中止することといたしました。
- ◆ 代わりといたしまして、決算説明動画を配信いたしますので、ご案内申し上げます。

◆ 2021年12月期 決算説明動画 の概要

- 公開日時 2022年2月25日(金)16:00(予定)
- 掲載場所 当社ホームページ内のIR資料ページ
- 説明者 代表取締役社長 前島 岳

- ◆ 動画は、どなたでもご視聴いただけます。
アナリスト・機関投資家に限定したものではありません。

- ◆ ご視聴賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



当社ホームページ

- トップページ <https://www.technoflex.co.jp/>
- IR資料 <https://www.technoflex.co.jp/ir/material.html>

- ✓ 本資料に記載された将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、将来発生する様々な要因により、異なる結果となる可能性を含みます。
- ✓ 2018年12月期は、決算短信、有価証券報告書、四半期報告書及び連結計算書類を作成していないため、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づき作成した連結財務諸表の数値を、参考情報として記載しております。
- ✓ 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)を適用するため、2022年12月期の予想は当該会計基準を適用した後の金額を記載しております。2021年12月期の実績は当該会計基準を適用する前の金額を記載しておりますので、2022年12月期の予想と2021年12月期の実績を比較した記載は、参考情報として記載しております。

2021年12月期



決算補足説明資料 - 完 -

株式会社テクノフレックス
証券コード:3449